

中国における高校教育の重点校・模範校から多様化・特色化への政策転換と展開に関する研究

野澤 有希*・王 佳穎**

(令和2年8月31日受付；令和2年12月23日受理)

要 旨

本稿は、中国における高校の重点校・模範校から多様化・特色化への政策転換の過程と展開を検討し、その特徴を解明することを目的とする。そのために、まず、重点校・模範校政策における教育制度と内容の硬直化などの課題を明らかにした上で、多様化・特色化政策の特質を考察した。次に、各省の政策文書における多様化・特色化の内容を抽出し、その展開を教育制度とカリキュラム特色の両側面から分析を行った。

結論として、その転換と展開の過程を以下4点に整理した。第1に、中国の重点校・模範校政策は、高校教育の質的向上と普及に大きな役割を果たした。とりわけ、模範校政策は優秀な人材を育成するという重点校の機能を継承しながら、全国的な高校教育の普及や非重点校に対する支援等教育公平に関する課題の解決も目指していることがわかった。第2に、高校の多様化・特色化政策が、模範校政策の課題を解決するために推進されており、模範校政策と補完的に働くことにより学校特色づくりを図っている。第3に、高校教育の多様化・特色化政策の教育制度の展開では、高大接続、「普職融合」、特色高校の拡大という特徴があることを明らかにした。第4に、中国の各省の高校教育の多様化・特色化のカリキュラムの内容を分析した結果、グローバル課題への対応、授業とカリキュラムの改善、ICT技術の活用、社会を生き抜く力と資質・能力の育成という類型があることを明らかにした。

KEY WORDS

Chinese upper secondary education reform 中国の高校教育改革, the diversification and characteristic of high school education 高校教育の多様化・特色化, key school and model school 重点校・模範校, curriculum development カリキュラム開発

1 はじめに

日本において、グローバル化や人工知能の発展など社会の急速な変化に伴い、新しい時代に求められる資質・能力を育むために、高校教育をめぐり、教育課程や大学入試に関する改革が行われている。中国においても同様な課題に直面している。改革開放後、急速な経済成長によって、人材需要の飛躍的な増加があるため、高学歴人材の育成が急務とされている。この背景を受け、高校教育の新入生数の増加への対応及び質的向上の方策として重点校・模範校政策が打ち出された。しかしながら、2000年以降、大卒者急増によりもたらされた高学歴人材の就職難と、学力の中間・下位層の教育が軽視される問題が顕在化されてきた。その状況に伴い、重点校・模範校政策への批判も相次いだ。聞¹ (2010) は、経済の高度成長の傾向を認めたことが当時の中国社会の現状を反映しているにもかかわらず、その根底には計画主義的な考え方があると指摘している。また、朱・阮² (2008) は、「国家主導による教育改革の全力的な推進にもかかわらず、計画主義の体制による非効率化や教育資源配置の不合理化が進んでいるため、高校の教育改革を阻むことになる」と指摘している。このように中国の高校教育においては、社会の急速な変化を背景に、社会の複雑に絡む教育課題を持続的かつ柔軟に対応することが大きな課題となっている。

重点校・模範校政策の問題を踏まえ、2010年、新しい時代に見据えた教育改革の方針として、「国家中長期教育改革及び発展計画要綱 (2010-2020)」³ (以下中国中長期教育改革要綱) では、高校の多様化・特色化政策が打ち出された。この政策は、「重点発展」、「均衡発展」に継ぎ、中国の教育改革の新たな改革理念となっており⁴ (劉, 2003)、学習者の個性の伸長や主体性の尊重などを掲げ、「素質教育」^(註1)の理念と教育現場のギャップを埋めることが期待されている⁵ (傅, 2010)。近年、中長期教育改革の最終段階を迎えるにあたり、高校の多様化・特色化政策の展開については、多くの研究成果が蓄積されている。例えば、余・謝⁶ (2020) は中国の多様化・特色化政策を考察した上で、法整備、大学入試制度や学校制度の面で、多様化・特色化に関する課題と改革に関する批判的な見解を示してい

*学校教育学系 **兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究所

る。李⁷（2017）は遼寧省における普通高校115校の管理者に対するアンケート調査により、多様化・特色化に対する改革の最前線に立つ教育者の認識を明らかにし、学校レベルの具体的な課題と今後の改善方向について示唆をまとめた。また、張⁸（2020）は、姜⁹（2010）の韓国における高校の多様化改革に関する政策考察から得た示唆を踏まえ、中国の高校の多様化・特色化政策をめぐる課題と今後の改革の方向性を見出した。このように、先行研究では、高校教育に携わる関係者に対するアンケート調査や国際比較、国の政策に関する文献考察などにより、高校の多様化・特色化政策について多角的な検討が行われてきた。

さらに、中国においては、教育政策と教育現場のギャップを埋めるために、教育の地方分権化も推進されてきている。中国中長期教育改革要綱では、「省レベル政府^(註2)の統一計画（省級統籌）を強化する」と記述されており、教育改革の主導権が省レベル政府に移行されつつある。この背景を受け、各省は地域の教育現状をもとに、中長期要綱を公布し、高校の特色化政策を制定し、実施している。すなわち、重点校・模範校政策では国が改革の方向性を決定する一方、省レベル政府に具体的な政策の制定権が委任され、各高校に地域の現状や教育理念に基づいた特色創りの内容が委ねられた。このように、中国の高校における重点校・模範校から多様化・特色化への政策転換と展開の考察は、国と省レベルの政策と実践状況の把握が必要不可欠である。しかし、このような研究は、管見の限り皆無である。それで、本稿は、中国における高校の多様化・特色化政策への転換の過程と展開の特徴を明らかにすることを目的とする。そのため、まず、重点校・模範校政策の限界と課題を整理した上、多様化・特色化政策の特質を考察する。次に、各省の政策公文書における多様化・特色化の内容を抽出し、その展開を考察する。

2 重点校・模範校政策から多様化・特色化政策への転換

2. 1 重点校・模範校政策の限界

中国においては、重点校・模範校政策が最初に登場したのは1960年代であった。1962年に、教育部「重点的に全日制の優良小・中高校を創設することに関する通知」では、「各省・直轄市・自治区は、教員の専門性が高くかつ施設・設備の優れた学校を選出して重点的に経営する」と記述したように、学校教育の質を高める方策として、重点校政策が打ち出された¹⁰。この政策は文化大革命によって一度中止されたが、文化大革命が終わった直後の1977年に、鄧小平は、教育の発展に二本足で歩き、普及と質の向上を同時に推進し、重点小・中・高等学校・大学を設置して、最も優秀な人材を選抜すべきであると提唱した¹¹。翌年1978年の1月、教育部「一部の重点小・中・高等学校の設置に関する試行方案」が公布され、重点校設置の目的や目標、計画等が定められた。さらに、1980年10月に教育部「段階的かつ期間的に重点中・高等学校を設置する決定」¹²（以下「決定」）が公布された。「決定」は、中国の人口が多く経済基盤が脆弱であり、全面的に優良な中・高等学校を開設すれば、資金不足の状況に陥る可能性があるため、一部の中・高等学校を選出して重点的に経営する必要性を強調した。このように、この時代の中国の学校教育は遅れている経済発展に制約され、教育資源をある程度集中させることで、人材を早急に育成することが求められている。

一方、1980年代の教育政策で、学校間格差問題に関する取り組みも見られるようになった。1980年の「決定」では、「重点高校の設置は我が国の学校教育の質を早急に向上するための戦略である」が規定されている一方、「この戦略は人材の育成と経験の蓄積に模範的な役割を果たして、非重点校の発展を支援する」とも指摘されている。同様に、1983年に公布された「高等学校の教育の質的向上を推進するいくつかの意見」¹³では、重点校が模範校として非重点校の教育の質的向上に支援すべきであるという指摘もあった。この時期では、重点校政策による優秀人材の育成・選抜が依然として重要視されているとともに、非重点校の発展への支援という模範的な役割を果たすことも求められている。

1990年代、中国経済の急速な発展とともに、高校の教育改革に新たな変化が現れている。1994年に、中国国務院が「『中国教育改革と発展要綱』に関する実施意見」¹⁴では、「全国では1000校ほどの実験的な模範高校を重点的に運営する」と記述しており、翌年、国家教育委員会により、「1000校の模範高校の評価に関する通知」¹⁵（以下「通知」）が公布された。「通知」では、模範高校の評価は義務教育が普及した地域に限り、さらに、非重点校に対する支援を積極的に行っている高校だけが対象になるという条件がつけられている。このように、当時の「優秀な人材を多く育成する」¹⁶という社会のニーズに応えるために、重点校から非重点校への支援により、高校教育の質を全体的に向上させることが求められている。

模範校政策の公布に伴い、学校教育のあり方をめぐる議論が生じた。とりわけ、重点校政策による学校間格差の拡大が注目されている（鐘啓泉¹⁷, 1996a ; b ; c, 張華¹⁸, 1996 ; 1998, 袁振国¹⁹, 1999）。例えば、教育学者の鐘啓泉²⁰（1996）は、重点校政策の限界について次のように指摘した。一つ目は、「学校の施設・設備、教師の資質」等の側

面における「格差の拡大」と「特色のない」である。二つ目は、教育資源の欠如による非重点校生徒の学力低下と、「受験中心」の方針が重点校生徒の人格発達に及ぼす影響である。三つ目は、教育公平ではなくエリート教育、チームワークではなく競争、文化・価値観の継承ではなく選抜だけを重要視する教育観である。そして、この三つを踏まえ、「受験中心の学校文化の観念を打ち破り、個性の伸長と人格形成を促す学校文化を醸成しなければならない」とする「学校文化づくり」、「重点校政策は教育とは何かを見直して学校教育全般の質的向上に取り組む」とする「学校制度と教育観の見直し」を提案している。これらの指摘は、詰め込み教育から素質教育への転換という中国教育改革の方向を示しているものであると考えられる。

さらに、1990年代に中国の基礎教育改革の最前線である華東師範大学の張華（1996）は、重点校から特色学校への転換を提唱した。その理由として次の3点をあげている。第1に、特色ある学校づくりの本質は学校の「個性化」である。具体的には、特色ある学校づくりは「特定の地域文化との深いつながり」を図り、「地域文化の継承」と「生徒の個性の発達」を促進することである。第2に、特色ある学づくりの方策の最終目標が「人間の発達と社会性を促す」ことである。第3に、特色ある学校づくりの政策は児童生徒の全面的な発達を促すことである。さらに、張（1996, 1998）の研究成果をふまえ、模範校と特色学校との関係について、「模範校を優れた特色学校とみなしている。（中略）模範校政策は特色学校の設置を促すために行っている教育政策の一つ」というように、特色ある学校づくりを模範校政策の課題の一つとして指摘した。

また、朱・王・段²¹（2009）が模範校政策には以下五つの特徴、「①国の教育政策と法律に基づく優れた学校経営」、「②新たな教育モデルを構築し、高校教育を牽引すること」、「③教育公平を促し、高校教育全体の発展を推進すること」、「④新たな教師養成モデルを構築し、教師の専門性向上を支えること」、「⑤特色ある学校を創り、地域との連携を深めること」と述べた。しかしながら、楊²²（2010）は1990年代からの重点校・模範校政策を概観した上で、模範校の創設には、「規模の大きさと施設の更新に熱中し、進学率を強調しすぎる」という問題があり、多くの模範校が「個性がない」と述べ、現段階では、模範校の設置に重点校政策の影響が依然残っていると指摘した。

このように、中国の重点校・模範校政策は、高校教育の質的向上と普及に大きな役割を果たしていると考えられる。とりわけ、模範校政策が、優秀な人材を育成するという重点校の役割を果たしながら、全国的な高校教育の普及や非重点校に対する支援等教育公平に関する課題の解決も目指していることがわかる。しかし、急速な質の向上が求められている一方、模範校政策では、進学率や受験勉強が依然として重視されているため、「千校一面」²³という高校教育制度の硬直化と教育内容の均質化に関する課題が顕在化している。

2. 2 高校の多様化・特色化政策の特質

中国教育部は模範校政策の課題を改善するために、「国家中長期教育改革及び発展計画要綱（2010-2020）」において、教育の質的向上と高校教育の普及という模範校政策の目標を継続的に取り組んだ上で、多様化・特色化という新しい目標が打ち出された²⁴。具体的に言うと、この「国家中長期要綱」においては、高校教育改革の目標として、教育の質的向上と高校教育の普及が中国建国以来の政策の継続として取り組んでいる同時に、「高校の多様化を推進する。（中略）高校の特色づくりを素質教育改革の方策の一つとして推進する」と明確に記されている。その後、中国において多様化・特色化に関する高校教育改革が盛んに展開しつつある。2012年、「国家教育事業発展に関する第12次五カ年計画」²⁵では、一部の地域では多様化・特色化を先行して実施すると記述されている。また、2017年から、第十三次五カ年計画期間に入った後、教育政策に関する公文書において、多様化・特色化に関する記述が多く見られた。さらに「国家教育事業発展に関する第十三次五カ年計画」²⁶や、「高校段階の教育普及に関する方策（2017-2020年）」²⁷において、高校の多様化・特色化という目標が強調された。2017年に公布された「普通高校教育課程方案（2017年版）」²⁸において、「『核心素養』の能力観をもとに高校の教育課程を再構築し、高校の多様化・特色化の展開に理論根拠を示している」²⁹（張，2020）。2019年に、「新時代の普通高校における人材育成方法の改革を推進することに関する指導意見」³⁰で、中国教育部が、2022年に「多様化・特色化高校の普及の形成」という段階的な目標を設定した。このように、先述した「国家中長期教育改革と発展計画要綱」が実施されて以来、高校の多様化・特色化の必要性が強調され、教育実践に根ざして、多様化・特色化政策と方策を急速に推進している。

各省・直轄市・自治区においても、多様化・特色化政策に関する国家の政策を踏まえ、「中長期要綱」、「第十三次五カ年計画」が打ち出され、省独自の取組みが広がりつつある。例えば、広東省は、2008年から模範高校の認定が行われた上で、高校の多様化・特色化を促すために、2019年から2021年までに「人文、数理、科学、芸術、体育」というカテゴリーで「特色模範高校」を100校認定するという計画を立てた。また、江蘇省は特色のある教育実践の創出を図るために、「課程基地」の設置を推進している。その推進に伴い、設置に関する評価基準の所定条件を満たした高校を「四つ星高校」として認定し、なおかつ、「四つ星高校」として10年間以上教育実践の改善・改革を積極的に

行った学校を「優れた特色模範高校」と認定した。このように、各省において、教育が一定水準に達した学校に特色づくりが求められているとともに、評価基準に満たした学校に模範の役割を果たせた。同時に特色づくりの経験や方法の共有も求められている。これは「学校特色づくりを図るために行っている教育政策の一環」³¹（張，1998）になっているとは言えよう。

しかしながら、多様化・特色化に関する教育政策を推進する同時に二つの課題が顕在化している。その一つは、中国において、高校就学率が、2000年の42.8%から2010年の82.5%に高まり、さらに2019年に89.5%に達し、高校教育が急速的に普及されてきた³²。一方で、職業高校の新入生数が高校段階全体の新入生数で占める割合は、2010年の50.9%³³から2019年の41.7%³⁴まで低下した。この状況となったのは、重点校に進学し、出世するという伝統的な価値観といった理由があると指摘されている³⁵。しかし、普通高校入学者数の急速増加に伴い、大学生の就職難が生じる一方で、職業高校卒の生徒の就職率が高く外資系・内資系企業のいずれにも高く評価されている³⁶。また、高校の定員数激増や学級の大人数化によるいじめ問題や不登校が頻発している³⁷。このように、多くの生徒が将来のために普通高校に進学することを選択したが、普通高校の大人数化により教育の質が低下し、さらに大学の学生数増加に伴い、就職の競争が激しくなった。この状況の中で打ち出した多様化・特色化政策は、模範校のような進学校と非進学校に分かれるように、学力に応じて垂直的に層化した高校を、専門学習内容の充実や高専連携により、キャリア選択の多様性を保障することを図っている。

もう一つは、多様化・特色化政策が個性の伸長と主体的な学習という「素質教育」の実現を目指しているに関わらず、実践課題が残っている。前述したように、中国の高校教育は情報化・グローバル化など社会の急速な変化に対応できる人材育成の課題に直面しており、新しい資質・能力の育成という課題も急務になった。この課題を解決するために、中国の学校教育において、2001年から「新課程改革」というカリキュラム改革が行われてきた。この「新課程改革」の教育理念³⁸では「主体的・協同的・探究的」な学習活動や形成的評価が提唱された。さらに、新たな教育理念を具体化するために詰め込み教育から脱し、問題解決学習により知識・経験を再構成して学習活動の工夫・創造が求められている。教育部が実施した調査³⁹によると、新課程改革が「討論、探究、協働」という教師の教育観への転換を促したと評価されている。しかしながら、2011年から改革理念と教育実践のギャップが依然として存在し、そのギャップを埋める必要があるとの指摘が相次いだ。その中で、裴娣娜⁴⁰（2011）は、授業で教科知識の暗記と技能を中心とする教育問題が解消されないと、個性の伸長や主体的な学習を重視する「素質教育」の実現もできないと指摘した。このような観点を踏まえ、教育部が2017年に全国人民代表大会への答申⁴¹では、「カリキュラム改革の深化」を多様化・特色化政策の基本方針の一つとして取り上げられた。このように、多様化・特色化政策の展開では、新たな教育理念で教育活動を実施し、探究的かつ主体的な深い学びを通して実社会・実生活に活用できる資質能力を育成することを図っている。

このように、多様化・特色化政策は、模範校政策の課題を解決するために、次世代に生きる生徒たちのニーズに応じて新たな教育実践を創出することを目的としている。この政策は模範校政策と補完的に働くことにより学校特色づくりを図っている。多様化・特色化政策を推進している中で、どのように就職難の状況を打開するか、またどのように次世代に生き抜く人材に資質・能力を育成できるかという二つの課題を解決することを模索している。

3 各地域における高校の多様化・特色化政策の展開

これから、中国の各省・直轄市・自治区の「中長期改革要綱」及び「第十三次五カ年計画」における多様化・特色化に関わる内容を、教育制度とカリキュラムの両側面から分析し、その内容の類型化を通して、政策の展開を検討する。

3. 1 教育制度の整備

ここでは、各省レベルの「中長期改革要綱」及び「第十三次五カ年計画」における高校の多様化・特色化における教育制度の整備に関する記述内容を抽出し、三つのカテゴリーに分類し、分析を行った。

多様化・特色化に関する教育制度の整備の内容は、「高大接続」、「普職融合」、「特色高校の拡大」を中心とする。まず、高大接続については、国家の中長期要綱及び第十三次五カ年計画のいずれにも関連記述が見られない。一方、「特色ある高校の創設や特色あるカリキュラムの開発を推進し、（中略）高度専門人材の育成に関する高大一貫教育を行う。」（湖北・第十三次五カ年計画）といったように、11省の教育政策文書では、「大学とつながるカリキュラムマネジメントシステムの設計」に関する規定が定められている。また、「高大連携の制度を制定し、高校生の大学授

表1. 高校の多様化・特色化政策における教育制度の内容

教育制度の整備の内容の特徴		省の数
1. 高大接続	a. 大学とつながるカリキュラムマネジメントシステムの設計	11
	b. 大学の講義履修・設備利用に関する制度の設計	9
2. 「普職融合」	a. 職業高校との連携等による専門技術学習の環境整備	23
	b. 総合高校への転換を保障	16
3. 特色高校の拡大	a. 「特色高校」プロジェクトを始動	14
	b. 「課程基地」の創設を保障	4

業履修、実験室利用の支援を行うことにより、多様な課題選択ができる学習を保障する。」(上海・中長期要綱)といったように、9省の教育政策文書では、「大学の講義履修・設備利用に関する制度」の内容が記されている。

次に、「普職融合」は、普通高校と職業高校の連携により、教育資源を活用し、学習者の学習能力、実践能力および創造力を高め、社会に生き抜く力と資質・能力を育成することを目指す制度である。具体的には、「職業高校との連携による専門技術学習の環境整備」と「総合高校への転換を保障する」という特徴を持っている。

「普職融合」については、国家の中長期要綱で、「ニーズに応じて条件整備し、普通高校に職業教育の内容を取り入れ、総合高校への転換を促す。」と記されている。この内容を踏まえ、23省の教育政策文書では、「学校間連携システムを構築し、高校段階の生徒が普通高校と職業高校の授業を自由に履修できることを図る」(雲南・中長期改革要綱)といったように、「職業高校との連携による専門技術学習の環境整備」に関する規定が定められている。また、「普通高校に、職業教育関連の選択科目を開講し、総合高校への転換を目指す」(福建・中長期改革要綱)といったように、16省の教育政策文書では、「総合高校への転換を推進する」という内容が記されている。このような「普職融合」の取組みは、次の3種類がある。一つ目は、学校の間の単位互換である。例えば、山東省青島市では、各6校の普通高校及び職業高校の生徒は、副次的学籍や単位互換制の制度に基づき、自由に授業を履修することができる⁴²。二つ目は、普通高校に専門学科を導入することによる総合高校の設置である。例えば、福建省の漳州市第五高校は、普通学科に加え、貿易、観光や芸術など5科目を設置し、生徒の個性の伸長を図り、イノベティブな人材育成を目指している⁴³。三つ目は、高校と職業高校とのカリキュラム開発の連携である。例えば、上海市の上海交通大学附属高校は上海情報技術学校との連携を通して、職業高校の「専門技術訓練センター」の設備を利用して科学的な探究能力を育成するカリキュラムを開発した⁴⁴。

最後に、特色高校の拡大については、国家の中長期要綱と第十三次五カ年計画のいずれでも、高校の多様化を推進し、特色学校の創設を推進することが強調されている。国の規定を踏まえ、14省の政策文書では、「2020年までに50校の特色高校の創設を推進する」(遼寧・第十三次五カ年計画)といったように、「特色高校」プロジェクトに関する内容が記されている。また、4省の政策文書では、「新課程改革の理念を踏まえ、ナショナルカリキュラムを実施し、各学校において、教育理念、育成する生徒像や教育現状をもとに、普通高校課程基地の創設を促す」(江蘇・第十三次五カ年計画)といったように、教科学習に焦点を当て、「『課程基地』の設置」に関する規定が定められている。江蘇省の「課程基地」の創設は2011年から行われ⁴⁵、現在370校^(注3)以上が認定された。江蘇省は「課程基地」で特色ある学習環境を構築し、カリキュラムの改善に焦点を当て、主体的・協働的・探究的な学習により、生徒の学習能力と探究能力などを育成している⁴⁶。また、「教師の専門性向上の拠点」というように、教師の専門性の向上も求められている。例えば、江蘇省南菁高校は、臨時職務を担当しながら講義を受けることを特色とする教師・管理職研修プログラムを開発し、受講者数が年間100人以上に達した⁴⁷。

このように、筆者は各省の教育政策公文書における多様化・特色化に関する教育制度の内容を考察して、高大接続によって多様化・特色化のカリキュラムマネジメントの融合を拡充していることが分かった。また、国と地方は普職融合、特色高校の拡大などの関連制度を整備することにより、教育改革の新しい理念を浸透することを図っている。

3. 2 高校の多様化・特色化のカリキュラム改革の推進

ここでは、各省の「中長期改革要綱」及び「第十三次五カ年計画」における高校の多様化・特色化に関わる内容から、カリキュラムの特色に関する内容を抽出し、分析した結果、表2で示したように、四つのカテゴリーに分類できる。

多様化・特色化に関する授業・カリキュラムの改善の内容は、「グローバル課題への対応」、「授業・カリキュラムの改善」、「ICT技術の活用」と「社会を生き抜く力と資質・能力の育成」を中心とする。

まず、グローバル課題への対応について、国家の中長期要綱及び第十三次五カ年計画のいずれにも、グローバル社会の課題への取り組みに関する記述が見られない。一方「普通高校の留学コース設置に対する管理を徹底する」(黒龍江・第十三次五カ年計画)といったように、6省の教育政策文書では、「留学コースの設置」の規定が示されている。また、「外国語(バイリンガル)の特色を重視する高校」(雲南・第十三次五カ年計画)といったように、10省の

表2. 高校の多様化・特色化政策におけるカリキュラムの特徴

カリキュラム改革の内容の特徴		省の数
1. グローバル課題への対応	a. 留学コースの設置	6
	b. 外国語教育の重視	10
2. 授業・カリキュラムの改善	a. 選択科目の充実	22
	b. 普通科の単位制	15
	c. 主体性の重視	18
3. ICT技術の活用		23
4. 社会を生き抜く力と資質・能力の育成	a. 地域学習、課外活動の充実	18
	b. キャリアデザインへの支援	17

* 中国大陸には現在合計31省・直轄市・自治区がある。

めて、(中略)量と質の両面を追求し、多様な選択科目を設置する」と記述されている。この方針を受け、多くの省は校本課程^(註4)の開発を進めている。具体的には、22省が「多様な選択科目を開発する」(江西・中長期改革要綱)といったように、選択科目のカリキュラム及び授業の内容を充実させ、また、15省が「普通科の単位制」の導入を推進した。さらに、「新课程改革」の理念を踏まえ、「多様な学習活動により生徒の主体性を引き出し、学習の質の向上を追求する」(河南・中長期改革要綱)といったように、18省の公文書では、主体性重視の内容が記されている。

「a. 選択科目の充実」、「b. 普通科の単位制」、「c. 主体性の重視」の3点ともに重視されている地域として、上海市があげられる。上海市は1998年から、独自の「第2期カリキュラム改革」(二期課改)を実施されてきている。「第2期カリキュラム改革」では、従来の教科分離型のカリキュラム構造から、教科横断の学習を支える、「基礎型カリキュラム」、「発展型カリキュラム」、「探究型カリキュラム」という多層的な構造への転換が行われている。

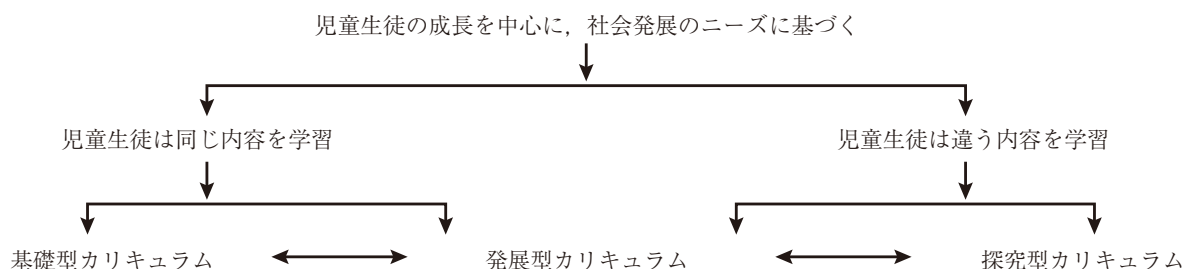
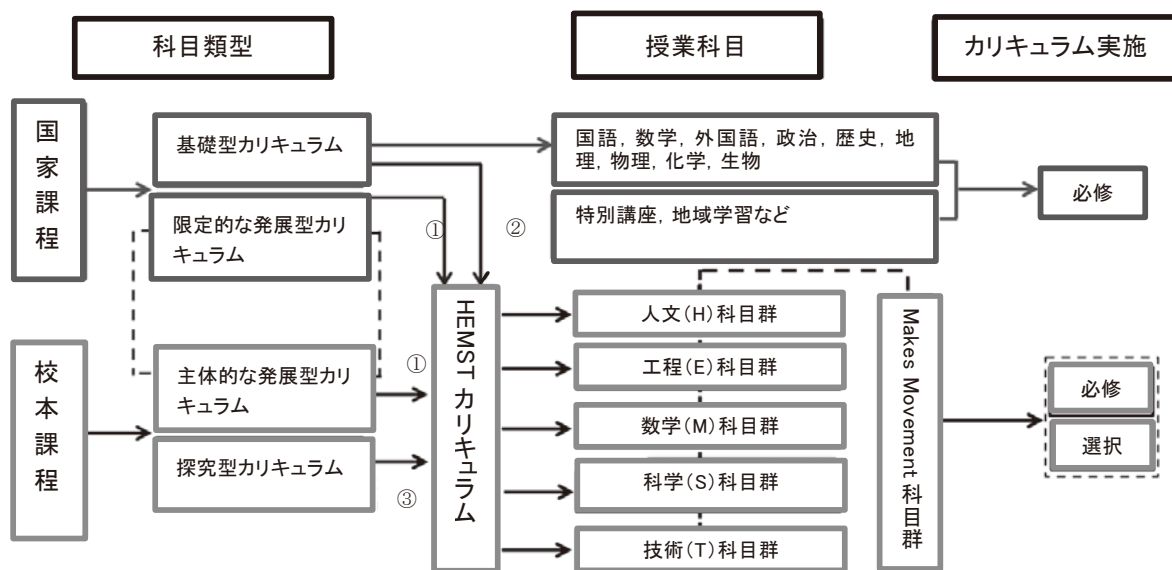


図1. 上海のカリキュラムの類型 野澤(2020)より抜粋

例えば、2019年に上海市特色高校として認定された嘉定第二高校のカリキュラムは次の図を参考できる。



* ①=広範的に統合する ②=有機的に結びつける ③=深く融合する

図2. 嘉定第二高校のカリキュラム構造⁵⁰

教育政策文書では、「外国語特色の重視」に関する内容が記されている。このような外国語特色は英語だけではなく、日本語・ロシア語など非英語圏の言語教育も重視されている。例えば、江蘇省「多言語教育課程基地」の蘇州市第三高校は、日本語学科を設置している。さらに、日本文化の教育環境を整備するために、蘇州第三高校が茶道教室やアニメ文化展覧室を設置し、姉妹校の蘇州日本人学校の生徒との交流活動を定期的に行っている⁴⁸。

また、授業・カリキュラムの改善について、第十三次五カ年計画では、「各地方の教育改革を進

図2のように、嘉定第二高校は、上海市の三つのカリキュラムの類型をさらに進化させ、「基礎型カリキュラム」、「限定的な発展型カリキュラム」、「主体的な発展型カリキュラム」、「探究型カリキュラム」の4類型を開発している。この4類型で、「基礎型」の教科学習はもとより、心理、安全や法治といった内容の特別講座、社会調査といった地域学習も国家課程の一部として必修科目に設置されている。また、模擬全人代^(注5)、Odyssey of the Mind、ロボット技術など、生徒の創造力や問題解決能力の育成を図るMakes Movement科目群を校本課程として選択科目に設置されている。このような独自のHEMSTカリキュラムの開発により、「豊かな人文的教養、科学的に探究するために必要な資質・能力と創造力を持ち、国際的視野を身につける現代社会公民の育成」を図っている。

さらに、ICT技術について、「ICT技術により教育・学習方法を改善し、授業の効果を高める」（山東・第十三次五カ年計画）といったように、上海等23省がICT技術の活用により、授業効果の向上を図っている。例えば、上海音楽学院附属安師実験高校は、上海音楽学院との連携で、「音楽制作」「録音芸術」「音楽の科学と技術」という大学授業の内容の一部を高校授業に導入し、作曲、音楽制作や音楽鑑賞といったデジタル音楽の制作体験により、音楽の創造力や実践力を育成している⁵¹。

最後に、社会を生き抜く力と資質・能力の育成について、第十三次五カ年計画では、「普通高校学生のカリキュラム教育と指導の制度整備を推進する」と記述されている。国の規定を踏まえ、18省が、キャリアデザインへの支援に関する制度の整備が進められている。また、18省の政策では「問題解決型学習、コミュニティーサービスなどの活動を充実させ、社会に生きる力や創造力の育成を図る」（山東・中長期改革要綱）という社会的な見方・考え方を育成するために、社会实践プログラム、地域学習、課外活動の充実が規定されている。

4 結論

本稿は、中国における高校の重点校・模範校から多様化・特色化への政策転換の過程と展開を検討し、その特徴を解明するために、まず、重点校・模範校政策における教育制度と内容の硬直化などの課題を明らかにした上で、多様化・特色化政策の特質を考察した。次に、各省の政策文書における多様化・特色化の内容を抽出し、その展開を教育制度とカリキュラム特色の両側面から分析を行った。ここでは、その転換と展開の過程を以下4点に整理し、結論としたい。

第1に、中国の急速な経済成長によって、人材需要の飛躍的な増加があるため、また、高校教育の新入生数の増加への対応及び質的向上の方策として重点校・模範校政策が打ち出された。中国の重点校・模範校政策は、高校教育の質的向上と普及に大きな役割を果たした。とりわけ、模範校政策が、優秀な人材を育成するという重点校の機能を継承しながら、全国的な高校教育の普及や非重点校に対する支援等教育公平に関する課題の解決も目指していることがわかった。しかしながら、模範校政策は、進学率や受験勉強が依然として重視されているため、高校教育制度と内容の硬直化という課題が顕在化している。2000年以降、大卒者急増によりもたらされた高学歴人材の就職難と、学力の中間・下位層の教育が軽視される問題が顕在化しているような複雑化かつ深刻化している社会の課題を持続的かつ柔軟に対応することが求められている。

第2に、高校の多様化・特色化政策が、模範校政策の課題を解決するために推進されており、模範校政策と補完的に働くことにより学校特色づくりを図っている。各高校が問題意識や教育現状をもとに、次世代に生きる生徒たちのニーズに応える新たな教育実践を創出することを目指している。よって、模範校政策が打ち出された時代とは異なり、多様化・特色化教育は新しい時代を迎えることになる。教育部は高校教育の硬直化の課題を解決するために、多様化・特色化の必要性が強調され、教育実践に根ざして、高校の多様化・特色化政策を推進している。実践の側面では、各省・直轄市・自治区は、多様化・特色化政策に関する国家の規定を踏まえ、省独自の取組みが広がりつつある。多様化・特色化政策は、高校教育の教育制度と内容の硬直化という課題を解決するために、学力に応じて垂直的に層化した高校を一定の専門領域と教育内容に関する選択の多様性への方向転換を行った。また、学校特色づくりを図るために、多様化・特色化政策は、質の高い高校教育の推進並びにカリキュラム改革の重視という特質があることを明らかにした。

第3に、高校教育の多様化・特色化政策の教育制度の展開では、高大接続、普職融合、特色高校の拡大という特徴があることを明らかにした。高大接続と普職融合のいずれも、他の教育機関との連携により、生徒の資質・能力の向上を促すために、生徒の科目選択に多様性と自由度をもって、カリキュラム開発をして、生徒の多様なキャリア選択を支えていることにつながっている。「普職融合」は、普通高校と職業高校の連携により、教育資源の補完的に活用し、学習者の学習能力、実践能力と創造力を高め、社会に生きる資質・能力を育成することを目指している。「普職

融合」の規定をもとに、学校の間の単位互換、普通高校に専門学科を導入することによる総合高校の創設、高校と職業高校とのカリキュラム開発の連携という3つの取組みが展開されている。さらに、特色学校の拡大に関する規定は、高校が地域の現状や自らの教育理念をもとに特色づくりを保障している。

第4に、中国の各省の高校教育の多様化・特色化のカリキュラムの内容を分析した結果、グローバル課題社会への対応、授業・カリキュラムの改善、ICT技術の活用、社会を生き抜く力と資質・能力の育成という類型があることを明らかにした。特色があるカリキュラムの実施と展開によって、生徒の個性と人間性の成長を保障でき、新たな時代のニーズに応じて、教育の質の向上を図ることができる。また、生徒を中心に新たな教育理念をもとに社会参加とキャリアデザインの視点から、キャリア教育や問題解決学習などを取り入れて、授業の方法と内容も革新している。特に、上海の各高校では多層性を持ち、地域全体の特色カリキュラムを取り組むことになっている。高校の各自の創意工夫によって特色があるカリキュラム開発は選択科目の幅と深さを広げ、生徒の主体性と創造性を育成することを図っている。今後の課題として、本稿の成果を踏まえ、多様化・特色化政策の展開と現状を把握するために、省・直轄市・自治区ごとに多様化・特色化の政策内容とカリキュラム開発を考察することが必要であろう。

注

1) 「素質教育」は、2001年からの「新カリキュラム改革」で打ち出された教育理念である。「素質教育」というのは、児童生徒の成長及び社会の持続的な発展のために、すべての学習者に向けることを趣旨とし、主として学習者の態度、能力を養成すること、また道徳的・知的・身体的等の面において、生き生きとした、活発で主体的な発達を促進することを基本特徴とする教育である⁵²。

2) 中国大陸の行政区分は、省級、地級、県級、郷級という4層の行政区のピラミッド構造である。省級の行政区画には、省、直轄市、自治区を含めている。以下省級の行政区画(省、直轄市、自治区)を省に略す。

3) 370校は筆者が2011年から2018年まで創設した江蘇省「課程基地」の数を加算した結果である。

江蘇省教育庁(2011a)「關於啓動普通高中課程基地建設的通知」蘇教基〔2011〕27号

江蘇省教育庁弁公室(2018)「關於公布2018年中小學課程基地建設項目及2016年項目視導結果的通知」蘇教弁基〔2018〕5号

4) 校本課程(School-Based Curriculum)は、中国の課程標準(日本の学習指導要領に相当する)で規定されている「国家課程・地方課程・校本課程」というカリキュラム構造の一環である⁵³。

5) 模擬全人代とは、全国人民代表大会(中国の最高権力機関および立法機関として位置づけられる一院制議会である)を運営も含めてシミュレーションする教育・サークル活動である。

引用文献

- (1) 聞待(2010)『論高中教育の多様化発展』華東師範大学博士論文。
- (2) 朱家存・阮成武(2008)『政府職能轉變与学校運行方式的变革』安徽教育出版社。
- (3) 中国国家中長期教育改革和發展規劃綱要工作小組弁公室(2010)「国家中長期教育改革和發展規劃綱要(2010-2020)」
http://www.gov.cn/jrzq/2010-07/29/content_1667143.htm 最終閲覧日2016年9月1日
- (4) 劉解軍(2003)『中国教育創新与特色学校建設理論与实践(上卷)』光明日報出版社
- (5) 傅国亮(2010)「特色發展, 文化育人」『基礎教育参考』(7), pp.4-7.
- (6) 余凱・謝珊(2020)「普通高中教育多様化發展的問題分析与政策建議」『中国教育學刊』2020(2), pp.40-45.
- (7) 李穎(2017)「普通高中多様化發展的现实基礎和路径選択: 基于对遼寧省115所普通高中的調查」『中国教育學刊』2017(5), pp.62-66.
- (8) 張軍鳳(2020)「普通高中多様化發展の十年探索与实践」21世紀教育研究院 編『教育藍皮書 中国教育發展報告(2020)』社会科学文献出版社, pp.15-27.
- (9) 姜英敏(2010)「“高中平準化”時代の落幕: 韓国高中多様化改革浅析」『比較教育研究』245, pp.43-47.
- (10) 張健 編(1984)『中国教育年鑑1949-1981』中国大百科出版社, p.167.
- (11) 毛勝 編(2007)「1977年鄧小平關於恢復高考的講話, 談話和批示選載」『党的文獻』4, p.3.
- (12) 何東昌 編(1998)「關於分期分批办好重点中学的決定」『中華人民共和國重要教育文獻(1949-1997)』海南出版社, p.1860.
- (13) 中国教育部(1983)「教育部關於進一步提高普通中学教育質量的几点意見」『人民教育』(9), pp.14-15.
- (14) 中国國務院(1994)「國務院關於“中国教育改革和發展綱要”的實施意見」『人民教育』(9), pp.3-11.
- (15) 中国国家教育委員會(1995)「關於評估驗收1000所左右示範性普通高級中学的通知」『課程・教材・教法』(9), pp.1-3.
- (16) 中国國務院(1985)「中共中央關於教育体制改革的決定」『中華人民共和國國務院公報』1985年第15号, p.467.
- (17) 鐘啓泉(2000a)「“重点校”政策可以休矣」鐘啓泉・金正揚・吳国平編『解讀中国教育(『教育参考』精選)』, 教育科学出版社, pp.334-339.

- 鐘啓泉 (2000b) 「再論“重点校”政策可以休矣」前掲『解讀中国教育 (『教育参考』精選)』, 教育科学出版社, pp.340-346.
- 鐘啓泉 (2000c) 「三論“重点校”政策可以休矣」前掲『解讀中国教育 (『教育参考』精選)』, 教育科学出版社, pp.347-353.
- (18) 張華 (1999) 「“重点学校”的消亡与“特色学校”的回歸—与傅祿建同志商榷」袁振国『論中国教育政策的轉變—对我国重点中学与效益的個案研究』広東教育出版社, pp.276-284.
- 張華 (1998) 「“特色教育”本質論」『教育理論与实践』18(3), pp.16-18.
- (19) 袁振国 (1999) 『論中国教育政策的轉變—对我国重点中学与效益的個案研究』広東教育出版社, p32.
- (20) 前掲鐘 (1996a).
- (21) 朱家存・王剛・段兆兵 (2009) 「論示範高中的使命与責任」『教育發展研究』(12), p.27.
- (22) 楊潤勇・楊依菲 (2010) 「我国普通高中發展二十年政策回顧和分析」『教育理論与实践』30, pp.23-27.
- (23) 前掲中国国家中長期教育改革和發展規劃綱要工作小組弁公室 (2010).
- (24) 前掲中国国家中長期教育改革和發展規劃綱要工作小組弁公室 (2010).
- (25) 中国教育部 (2012) 「国家教育事業發展第十二個五年規画」教發〔2012〕9号
- (26) 中国國務院 (2017) 「国家教育事業發展第十三個五年規画」国發〔2017〕4号
- (27) 中国教育部 (2017a) 「高中階段教育普及攻堅計画 (2017~2020年)」教基〔2017〕1号
- (28) 中国教育部 (2018) 『普通高中課程方案 (2017年版)』人民教育出版社.
- (29) 前掲張軍鳳 (2020).
- (30) 中国國務院弁公庁 (2019) 「新時代推進普通高中育人方式改革的指導意見」国弁發〔2019〕29号
- (31) 前掲張華 (1998).
- (32) 中国教育部 (2020) 「2019年全国教育事業發展統計公報」
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/sjzl_fztjgb/202005/t20200520_456751.html 最終閲覧日2020年8月11日
- (33) 中国教育部 (2012) 「2010年全国教育事業發展統計公報」
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A03/s180/moe_633/201203/t20120321_132634.html 最終閲覧日2020年8月11日
- (34) 前掲中国教育部 (2020).
- (35) 前掲李穎 (2017).
- (36) 上海市教育科学研究院 (2011) 「中職高就業率如何成就高吸引力」
<http://www.cnsaes.org.cn/homepage/html/resource/res06/5107.html> 最終閲覧日2020年8月11日
- (37) 楊東平 (2020) 「走進“後普及教育時代”的中国教育」21世紀教育研究院 編『教育藍皮書 中国教育發展報告 (2020)』社会科学文献出版社, pp.1-14.
- (38) 鐘啓泉・崔允潔・張華 (2001) 『為了中華民族的復興, 為了每位學生的發展—基礎教育課程改革綱要 (試行) 解讀』, 華東師範大學出版社.
- (39) 馬雲鵬 (2009) 「基礎教育課程改革: 實施進程, 特徵分析与推進策略」『課程・教材・教法』(4), pp.6-7.
- (40) 裴娣娜 (2011) 「学校教育創新視野下中国基礎教育課程改革的實踐探索」『課程・教材・教法』31(2), pp.13-19.
- (41) 中国教育部 (2017b) 「關於政協十二屆全國委員會第五次會議第1088号 (教育類099号) 提案答復的函」教提案〔2017〕第215号
- (42) 山東省教育庁 (2013) 「關於開展普通高中与中等職業学校学分互認学籍互轉試点工作的通知」魯教基字〔2013〕39号
- 青島市教育局 (2016) 「關於加強中学教育階段普職融通工作的意見」青教通字〔2016〕9号
- (43) 尹雪梅 (2012) 「内因外力助推高中特色發展——福建省普通高中入学模式多樣化改革的探討」『福建基礎教育研究』(5), pp.23-25.
- (44) 張明・齊雲 (2013) 「普職滲透實現双贏——上海信息技術学校与上海交大附中合作实例」『工業和信息化教育』(1), pp.44-47.
- (45) 江蘇省教育庁 (2011b) 「關於啓動普通高中課程基地建設的通知」蘇教基〔2011〕27号
- (46) 前掲江蘇省教育庁 (2011b).
- (47) 「厚積薄發, 南菁高中品牌效應逐漸顯現」<http://www.njschool.cn/news/1233/8551> 最終閲覧日2020年8月11日
- (48) 唐笑叶 (2020) 「關於新課標下如何設計日語活動課的初探——基于蘇州三中多語種課程基地“生態體驗融合創新”的理念」劉国華・郭侃亮編『中等日語教育 (第1輯)』華東理工大学出版社, pp.19-28.
- (49) 野澤有希 (2020) 「上海のカリキュラム改革におけるカリキュラム全体構造の特徴に関する研究」『上越教育大学紀要』39, pp.333-342.
- (50) 「上海市嘉定区第二中学2019学年課程計画」
<https://jez.jdy.sh.cn/html/jez/gonggaogongshi/content/show-1264.html> 最終閲覧日2020年8月11日
- (51) 「音樂創造精彩人生: 上海音樂学院附属安師實驗中学音樂創新實驗室」上海市教育委員會教育技術裝備中心 (2017) 『創新實驗室里的成長超越』上海教育出版社, pp.340-349.
- (52) 鐘啓泉・崔允潔・張華 (2001) 『為了中華民族的復興, 為了每位學生的發展—基礎教育課程改革綱要 (試行) 解讀』, 華東師範大學出版社.
- (53) 同上.

Research on the Transformation of Chinese Upper Secondary Education From Key Schools and Model Schools to Diversified and Characteristic Schools and Policy Formulation

Yuki NOZAWA* · Jiaying WANG**

ABSTRACT

This paper seeks to discuss the policy transformation and development process from key and model schools to diversified and characteristic schools in Chinese upper secondary education, as well as expound on its characteristics.

This process is summarized by four points. First, China's policy on key schools and model schools has played a vital role in improving and popularizing high school education. Specifically, the model school policy has not only inherited the function of cultivating outstanding talents as a key school but has also aimed to popularize high school education nationwide and provide support to non-key schools to address educational equity. Second, the diversification and characteristic policies of high schools are promoted to solve problems regarding the model school policy and seek to create school characteristics by complementing one another through such a policy. Third, the education system, with diversified and characteristic policies for senior high school education, has three characteristics: the linkage between senior high schools and universities, the integration of basic and vocational education, and the expansion of characteristic senior high schools. Fourth, this study analyzes the contents of diversified and characteristic curriculums in Chinese high school education. The results show four types of contents: global response to host society, classroom and curriculum improvement, use of ICT technology, social life skills, and the cultivation of quality and ability.

* School Education

** The Joint Graduate School in Science of School Education, Hyogo University of Teacher Education (Ph. D. Program)